

令和５年度第１回京都市美術館協議会 摘録

１ 日 時

令和５年１０月３１日（火） 午後２時から午後３時５０分まで

２ 場 所

京都市京セラ美術館 講演室

３ 出席者

（１）委 員

赤松玉女委員（会長職務代理者）、太下義之委員、小山田徹委員、
阪脇郁子委員、篠原資明委員、白波瀬誠委員、並木誠士委員、
原久子委員、東岡由希子委員、福永治委員、藤澤浩一委員、
細見良行委員、若竹宏諭委員、渡辺信喜委員

※ 委員の互選により、建畠哲委員が会長に就任したが、欠席であったため
会長の事前指名により赤松委員を会長職務代理者とした。

（２）京都市

吉田良比呂副市長、砂川敬文化芸術政策監、青木淳京都市京セラ美術館長 ほ
か

４ 傍聴者

２名

５ 次 第

（１）開 会

（２）委員紹介

（３）挨 拶（副市長 吉田良比呂）

（４）挨 拶（京都市京セラ美術館長 青木淳）

（５）議 事

ア 令和４年度事業報告及び令和５年度事業について

イ その他

（６）挨 拶（文化芸術政策監 砂川敬）

（７）閉 会

6 議事摘録

議 長	令和５年度第１回京都市美術館協議会の議事に入る。 はじめに、議案書の「令和４年度事業報告及び令和５年度事業について」を事務局から説明いただく。
事務局	(１) 京都市京セラ美術館 概要 (２) 令和４年度及び令和５年度事業について (展覧会・貸館・美術品の収集・調査研究・教育普及)
議 長	委員から、ただ今の報告に対する御意見等があればお伺いしたい。
委 員	教育普及事業として月１回程度開催されているぽよよんデイズの参加者から話を伺ったところ、鑑賞者の立場から、より能動的に思考したり鑑賞したりする良いきっかけになるという意見だった。 ただし、事業報告書にもあるように現状ではぽよよんデイズが単発での事業に留まっている。人員・予算・空間管理等の様々な問題があると思うが、今の美術館の教育普及に係る体制はどうか。今後の体制に向けてどのように考えているか。
副館長	御指摘のとおり、現在は単発事業しかできていない。課題についてもご認識いただいているとおり、資金と人員面が厳しい状況。限られた財源の中でどう実施していくかが課題。 その中で、現在は事業企画推進室に委託して非常勤２名体制で運営している。美術館としては、常勤職員で事業に取り組むために市の財政担当に要望等はしているが、現状難しい。 資金調達方法の一つのアイデアとして、民間連携を検討したいと考えている。例えば、年間を通じた教育普及事業に企業協賛いただくような仕組みができないかと考えている。
委 員	教育普及事業については、様々な方法で学べる環境が必要である。教育普及の在り方に正解はないと思うので、美術館としての最適手法を検討するには試行錯誤やそれに伴う予算も不可欠である。 教育普及事業を本気で取り組むには、美術館運営の構成を変える大きな変革が必要。他の事業を廃止してでも、教育普及に充てる予算を生み出す等、大きな覚悟が必要と考える。 現状美術館ではコーディネーターによって提供されるコンテンツが多く、受動的な教育体制から抜け出せていない。しっかりと環境づくりを行い、適した場を提供できれば、自然と学び合う風潮が生まれる。また予算を掛けずに事業を実施できる枠組み作りも重要である。 京大博物館では、子供たちが研究を体験できる子供研究室を週替わりで実施している。そのような週替わりで美術と対話ができるような

	企画があればよい。
委 員	ポートランドでは、美術館のホールで披露宴を開催し、館内で立食パーティーなども実施していた。そのような使い方もできるのではないかな。
副館長	当館においても、レセプションパーティーや結婚式を開催した活用例はある。
委 員	他の委員からも指摘のあったとおり、教育普及事業は単発化している。原因はコンテンツの中身が企画展に結び付いているためであり、本来はコレクションに結び付けるべきである。 今年度に博物館法が改正され、デジタルアーカイブの推進が謳われており、今後は教育普及事業においても導入の検討をすべきである。 資金調達について、国立科学博物館のクラウドファンディングが話題になった。しかし、運営費は本来政府が負担すべき費用。市としても財源に限られる中で、設置者としての責務を果たすことを前提に、民間事業者と連携する方法を模索していかなければならない。 ただし、民間事業者と連携するにあたり、企業から一方的に施しを受けるのではなく、美術館側からも企業に価値を提供することで、初めてコラボレーションが成り立つ。どのような価値を企業に提供できるかを美術館で検討する必要がある。 運営体制について、まずは美術館としてどのような機能・役割を果たすべきかについて検討すべきである。例えば、アーティスト支援機能、社会包摂的機能、政策提言機能など。京都市美術館が目指す方向性をきちんと検討したうえで、運営体制の最適手法を検討することが望ましい。
委 員	市立芸大の学生による教職の実習など、美術館と学生の相互にとって利益になるような取り組みはどうか。京都大学でも出前授業として、大学院生を高校に派遣していた取組実績もある。
委 員	京都工芸繊維大学では、当大学の資料館で開催する展覧会に関して、学生が半年程の期間をかけて美術館教育プログラムを作成し、地域の小学生に対して実習を行っている。美術館に置き換えれば、コレクションで学生と連携し、教育プログラム事業が実施できるのではないかな。
議 長	コレクションを活用して教育プログラムを作成することについては、単発の企画展とは違い、継続性もあり学生も取り組みやすいため賛同できる。
委 員	京都市美術館では友の会制度は設けているが、市民が鑑賞者をサポートするような仕組みはあるか。サポーター育成には、時間と手間が

	かかるが、市民をはじめ多種多様な人々の間でコミュニティの形成や関係性が築ける取組にもつながっている。 資金調達について、大阪中之島美術館では民間企業のサポートのもと、誰もが無料で観覧できるエリアを設けており、資金調達にも様々な手法があるのではないかな。
総務課長	美術館独自のサポーター制度はないが、京都市においては文化ボランティア制度があり、ザ・トライアングルの看視にご協力いただいている。
委員	ザ・トライアングルに無料で入場できると知らない人が多いのではないかな。北西エントランスから入場可能であることも含めて、掲示等で分かりやすくすべき。
委員	報告書にもあるようにコレクションが1日あたり200人に留まっており、他の企画展と比較しても少ない。素晴らしい作品が揃っており、展覧会自体の魅力があるのにもったいない。広報をはじめ、もっと学生や一般市民を集客できる工夫を検討してほしい。 現在休止中の京展を再開してほしい。学生自身も、町の画廊ではなく美術館で展覧会をすることでやりがいに繋がる。予算や経費の問題もあると思うので、規模を縮小するなどどうにかやり方を考えてもらえないかな。
副館長	京展については、経費や人員の負担が大きく、従来の形での実施は難しい。一方で若手育成の観点から、別の形で事業を実施できないかな検討したい。
委員	教育普及や若手育成などを今後実施していくには、まずは収支を合わせていく必要がある。京都市が際限なく税金で負担できるのであれば別だが、採算が合わなければどんなに良い企画でも実現できない。各委員の提案に対して、議論の行きつく先のほとんどが財源不足になっている。コンセプションもいろんな形があるが、誘致をしようにも企業側は採算が合わなければ手を挙げない。今後の在り方や財政をどうするか検討しないと議論が進まない。
議長	美術館においてリピーターの存在は重要であり、一過性の企画展ではなく、コレクションはリピーター確保に繋がる。将来のアーティスト育成も行政の責務だが、若い頃から芸術活動に触れる機会を美術館が提供することで、アーティストを支える存在となるアートファンや文化のファンを増やすことが重要である。
委員	まずは、人員やお金の問題など根本的な解決に取り組まなければならない。

	教育普及について、京都市美術館・京都国立近代美術館・京都市動物園・京都府立図書館など岡崎全体でコネクトという事業を実施しており、少しずつではあるが芽は出てきているという認識である。
委 員	広報に関してだが、Instagramのフォロワーは多い印象を受けたが、YouTubeの登録者数は少ない。YouTubeにアップロードされているコンテンツはしっかりしているが、再生回数が少なくもったいなく感じる。このような広報活動に対して、目標値などはどのように考えているか。多種多様な発信手段がある中で、検討余地があるのではないか。
総 務 課 長	ご指摘のとおり、YouTubeの公式チャンネルを戦略的な広報活動に活用できておらず、また目標値を明確に定めているわけではない。認知度を上げるべく様々なリリースを行っているが、伸び悩んでいるのが現状。
委 員	メンバーシップの会員数が少ないと感じる。講演会などのイベント案内をもらっているが、1日限定のイベントばかりで参加できないため継続的な形で開催してほしい。 他の美術館では作品鑑賞する際にサポートしてくれる人がいたりする。京都市美術館でも常設展などで、特に子供たちの鑑賞をサポートしてもらえる体制があれば、メンバーシップ加入や寄附等にも繋がっていくのではないか。
委 員	教育普及に関して、京都のアドバンテージは修学旅行生であり、修学旅行生への訴求で京都文化の全国発信が可能であるため、京都の特色を打ち出せないか。先例として、長崎市は平和教育とSDGSを融合した教育プログラム作成し提供している。修学旅行生に向けた美術教育旅行など、京都市独自のプログラムを提供できないか。
委 員	細見美術館もコロナが終わってこれから邁進しようとしているところ。常設展を拝見しているが、タイトルのインパクトが弱く、京都画壇をもっと打ち出して開催してほしい。以前は現代美術に対して批判的であったが、リニューアルにより東山キューブができ、現代アートの展示が非常に良い。リニューアル検討の際には、現代アートのスペースに対して苦言を呈したが、前言を撤回する。
議 長	これにて議事を終了とする。